

「令和3年度（2020年度）学生生活アンケート」における教育関連項目の分析

筑波学院大学 IR 担当

調査の概要

筑波学院大学では、在籍しているすべての学生を対象に「学生生活アンケート」を実施している。調査項目は学生生活や経済支援に関する項目まで多岐にわたるが、本稿は「V.授業・教育・資格について」の項目を分析し、学生の学修状況の把握を行い、これからの教育の改善に関する提言を行うものである。

実施時期：2022年1月19日～2月20日 ※ Google フォームの回答時間データより

調査対象：2021年度 経営情報学部所属学生

調査方法：Google フォームによるアンケート方式で実施

※ 「V.授業・教育・資格について」以外にも含めた全データは別途資料あり（2021年度学生生活アンケート_1_7.pdf）

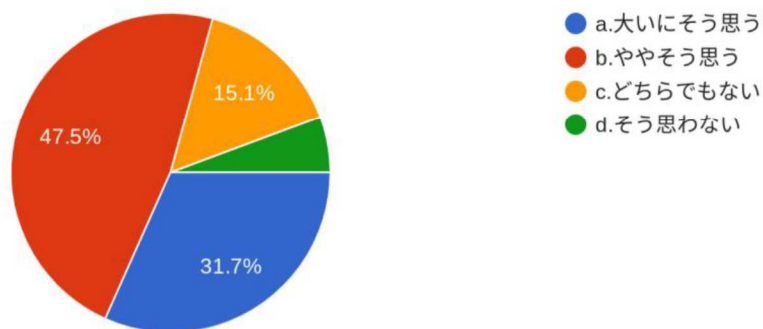
回答者数

学年	日本人学生	留学生	外国人学生	総数
1年生	82	21	3	106
2年生	44	19	4	67
3年生	46	22	4	72
4年生	14	6	2	22
計	186名	68名	13名	267名

「V.授業・教育・資格について」より

授業への動機づけ・学習意欲

2. 自分は授業に対して、学ぶ意欲を持ち、真面目に取り組んでいると思いますか 265件の回答

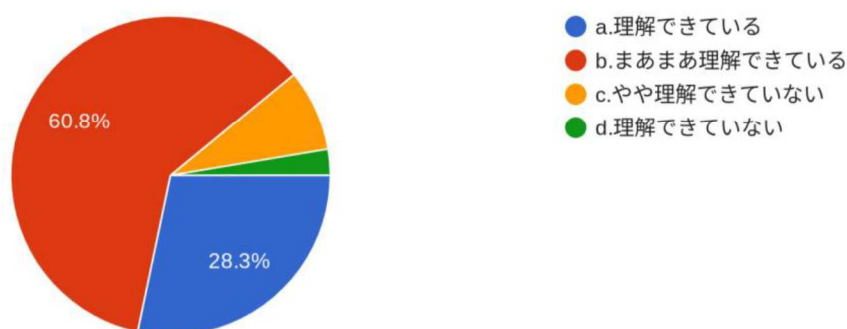


「2.自分は授業に対して、学ぶ意欲を持ち、真面目に取り組んでいると思いますか」の回答結果から、「大いにそう思う」「ややそう思う」で79.2%、約8割の学生がまじめに取り組んでいると自己報告している。

以降の教育に関するネガティブな評価や評定は、上記の大学教育に対する動機づけの高い学生がどれくらい含まれているかを中心に分析を進める。また、真面目に取り組んでいるとは言えない学生（20.8%）が、他の質問項目にどのような回答傾向があるかについても検証する。

授業理解度

5. 授業は理解できていますか 265件の回答



「5.授業は理解できていますか」の回答結果から、89.1%の学生が「理解できている」「まあまあ理解できている」を選択した。回答したほとんどの学生が授業内容を理解したと自己評価していた。

Table1. 「授業への動機づけ」と「授業理解度」のクロス集計表

授業への動機づけ 授業理解度	a.大いにそう思う	b.ややそう思う	c.どちらでもない	d.そう思わない
a.理解できている	43	27	2	2
b.まあまあ理解できている	37	93	24	7
c.やや理解できていない	2	6	11	3
d.理解できていない	1	0	3	3

「2.自分は授業に対して、学ぶ意欲を持ち、真面目に取り組んでいると思いますか」の回答とのクロス集計表は Table1 の通りであった。授業理解度の低い学生は、概ね授業への動機づけも低い傾向が認められる。が、動機づけの高い学生の中にも一部授業を理解できていないと自己評価している学生もいたことは、教学全体で留意するべきであろう。

Table2. 「学年」と「授業理解度」のクロス集計表

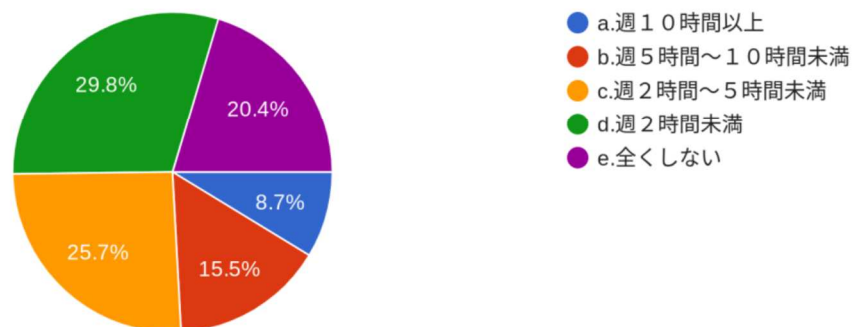
学年 授業理解度	a.1年生	b.2年生	c.3年生	d.4年生
a.理解できている	28	16	20	11
b.まあまあ理解できている	66	44	43	8
c.やや理解できていない	9	5	7	1
d.理解できていない	3	1	2	1

学年ごとの回答は Table2 の通りであった。各学年に一定数、授業の理解に困難を示す学生がいた。初年次の導入段階での躓きが多い、といった、特定学年での対応を迫られる傾向はなかったことが伺える。

授業の予習・復習

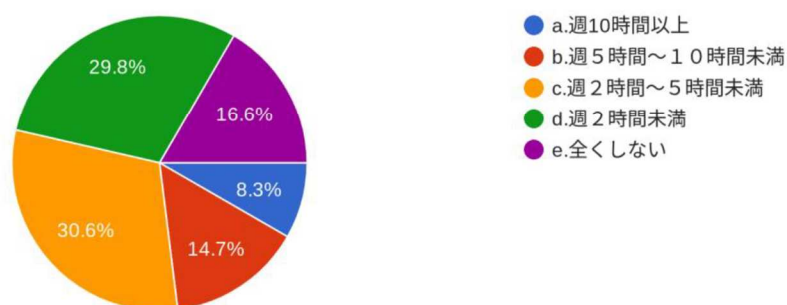
3. 授業の予習をする時間は週平均何時間くらいですか

265 件の回答



4. 授業の復習をする時間は週平均何時間くらいですか

265 件の回答



「3.授業の予習をする時間は週平均何時間くらいですか」「4.授業の復習をする時間は週平均何時間くらいですか」の回答結果は上記の通りであった。「週2時間未満」「全くしない」と回答した割合は予習50.2%、復習46.4%であり、いずれも回答者の半数近くを占めていた。シラバス上はすべての科目で予習復習の指示があるため、結果の解釈は1) 予習復習の課題提供が各授業でまだ少ない、2) 実際には予習復習を行っているが、総括したときの学生の感覚から少な目に解答されている、などが考えられる。

Table3. 「予習時間」と「授業への動機づけ」のクロス集計表

予習時間 授業への動機づけ	a.週10時間以上	b.週5時間～ 10時間未満	c.週2時間～ 5時間未満	d.週2時間未満	e.全くしない
	a.大いにそう思う	16	23	26	14
b.ややそう思う	5	16	36	54	15
c.どちらでもない	1	2	5	6	26
d.そう思わない	1	0	1	5	8

Table4. 「復習時間」と「授業への動機づけ」のクロス集計表

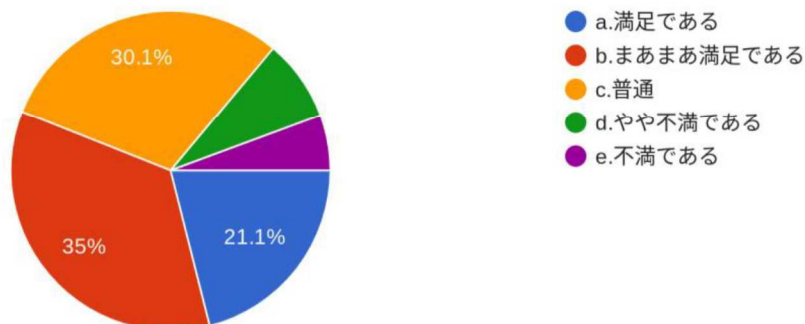
復習時間 授業への動機づけ	a.週10時間以上	b.週5時間～ 10時間未満	c.週2時間～ 5時間未満	d.週2時間未満	e.全くしない
	a.大いにそう思う	15	18	29	18
b.ややそう思う	5	16	46	42	17
c.どちらでもない	1	5	3	14	17
d.そう思わない	1	0	3	5	6

「2.自分は授業に対して、学ぶ意欲を持ち、真面目に取り組んでいると思いますか」の回答と「予習時間」「復習時間」のクロス集計表はそれぞれ Table3, Table4 の通りであった。学習意欲の低い学生の予習・復習時間が短い傾向は示されたが、一方で学習意欲の高い学生（項目2の回答が「a.大いにそう思う」「b.ややそう思う」）の中にも予習・復習の時間が週2時間未満の学生は含まれていた（予習33.2%、復習30.6%）。学習意欲に乏しくて予習・復習時間が短くなるだけでない要因が考えられ、要検討な課題であろう。

授業への満足度

6. 授業内容は満足できていますか

266 件の回答



「6.授業内容は満足できていますか」の回答結果は上記の通りであった。回答者全体の 13.8%の学生が「不満」「やや不満」との回答だった。

Table5. 「授業の満足度」と「授業への動機づけ」のクロス集計表

満足度 \ 動機づけ	a.満足である	b.まあまあ満足	c.普通	d.やや不満	e.不満である
a.大いにそう思う	38	29	12	4	1
b.ややそう思う	16	54	43	7	6
c.どちらでもない	2	7	22	6	3
d.そう思わない	0	3	2	5	5

「2.自分は授業に対して、学ぶ意欲を持ち、真面目に取り組んでいると思いますか」の回答と「授業の満足度」のクロス集計表はそれぞれ Table5 の通りであった。

動機づけが高く学習意欲はあるのに授業に対して「やや不満」「不満」と回答した割合は全体の 6.8%であった。一方、学習意欲も低く授業に「やや不満」「不満」と回答した割合は 7.2%であった。これらに該当する者の自由記述を抜粋したのが以下の通りである。

学習意欲はあるのに授業に対して「やや不満」「不満」と回答した者の自由記述（一部抜粋）

- 4 年生 極端に学習意欲のない学生への対応をして欲しい
- 3 年生 授業の難易度をもっと上がって欲しい、本当に勉強したとはいえ勉強するものがあんまりない。
- 3 年生 必修に必要なない授業が多すぎる。
- 2 年生 授業騒がしい人がいる。交友関係を持つことは大切だが、仲間意識が強すぎるのもどうかと
- 1 年生 生徒の意見を取り入れる
- 1 年生 やっている人とやっていない人の不公平差をなくしてほしい
- 1 年生 もっと他の大学を見習ってほしい
- 1 年生 シラバスの内容とは異なる授業が多い、成績の付け方も先生や教授によって説明はされている

が詳しくはされていない。テストがなかったりしてどうやってつけているのか理解出来ない。
大学をきちんと卒業できるのか不安

学習意欲が低く授業に対して「やや不満」「不満」と回答した者の自由記述（一部抜粋）

- 2年生 学校のPCのスペックを上げてほしい。PDFを開いてフリーズするようでは話にならない
- 1年生 空調の故障、Wi-Fiの通信速度の低下、2101教室、2201教室の椅子が座りづらいなど、校舎がとても古い。
- 3年生 学内PCの動作が遅すぎて授業制作に取り組めないときがある。せめてそういったストレスなく授業に取り組める環境であってほしかった。
- 3年生 授業の選択の幅が広いのはいいと思うが、どのような授業を取ればいいのかの例などがあればもっといいと思う
- 2年生 資格取得や公務員試験のために、全授業の課題の量の見直しを大学で行い、時間にゆとりを持てるように大学がサポートしてほしいです。

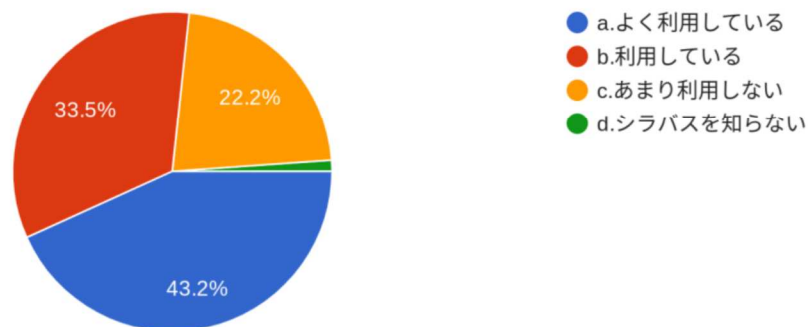
学習意欲の高い学生による自由記述では、授業の難易度を挙げて欲しいことや、積極的に参加している学生を正当に評価して欲しい、等が挙げられていた。要求は成績評価の厳格化や授業内容の深化への要望のため、今後の対応を図ることは可能であろう。授業改善の視点から、組織的な対応が望まれるところである。

学習意欲の低い学生による自由記述では、授業運営そのものへの不満ではなく、学内施設の不備の指摘や、履修方法や大学のカリキュラムについて正しく理解していないコメントが挙げられていた。こちらの対応は教学とは別の観点からの検証も必要であろう。

シラバスの利用

7. 履修登録の際に、シラバスを利用していますか（シラバスを読み、受講の参考に使っていますか）

266件の回答



「7.履修登録の際に、シラバスを利用していますか(シラバスを読み、受講の参考に使っていますか)」の回答結果は上記の通りであった。回答者全体の23.3%が「あまり利用しない」「シラバスを知らない」との回答であり、想定されるより多くの学生がシラバスを利用していないことが示された。

Table6. 「シラバスの利用」と「授業への動機づけ」のクロス集計表

シラバス利用 授業への動機づけ	a.よく利用している	b.利用している	c.あまり利用しない	d.シラバス知らない
a.大いにそう思う	54	21	9	0
b.ややそう思う	46	45	34	1
c.どちらでもない	11	16	13	0
d.そう思わない	4	6	3	2

「2.自分は授業に対して、学ぶ意欲を持ち、真面目に取り組んでいると思いますか」の回答と「シラバスの利用」のクロス集計表は Table6 の通りであった。

学習意欲の高い学生が「あまり利用しない」「シラバスを知らない」を選択した割合は全体の 16.6%となっていた。学習意欲のある学生でも、シラバスの利用法を分かっていない者が少なくないことが伺える。ガイダンスや基礎ゼミの早期の段階で、シラバスの活用方法のガイドが必要であろう。

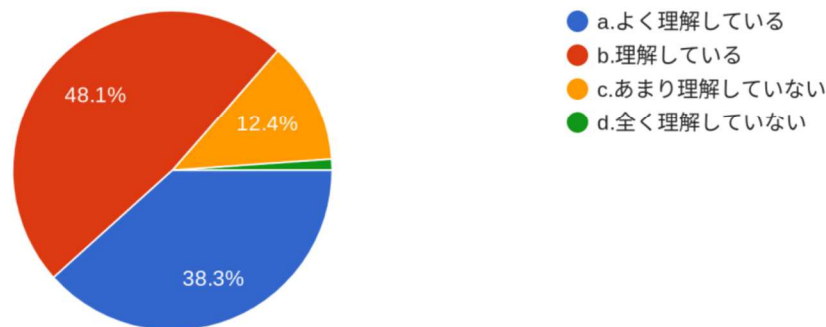
Table7. 日本人学生・留学生・外国人学生によるシラバス利用状況

シラバス利用 種別	a.よく利用している	b.利用している	c.あまり利用しない	d.シラバス知らない
a.日本人学生	71	63	49	2
b.留学生	36	22	9	1
c.外国人学生	8	4	1	0

Table7 は日本人学生・留学生・外国人学生によるシラバス利用状況である。データからは、日本語の読解に難がある留学生や外国人学生がシラバスを利用していない、という仮説は支持されないといえる。

時間割・履修計画の理解

8. 計画的に卒業要件を満たすための時間割の作り方や履修登録の仕方を理解していますか
266 件の回答



「8.計画的に卒業要件を満たすための時間割の作り方や履修登録の仕方を理解していますか」の回答結果は上記の通りであった。回答者の 13.6%が「あまり理解していない」「まったく理解していない」を選択していた。

Table8. 「時間割・履修計画の理解」と「授業への動機づけ」のクロス集計表

時間割・履修 計画の理解 授業への動機づけ	a.よく理解している	b.理解している	c.あまり理解して いない	d.全く理解して いない
a.大いにそう思う	50	32	2	0
b.ややそう思う	41	67	17	1
c.どちらでもない	8	22	10	0
d.そう思わない	3	6	4	2

「2.自分は授業に対して、学ぶ意欲を持ち、真面目に取り組んでいると思いますか」の回答と「時間割・履修計画の理解」のクロス集計表は Table8 の通りであった。

学習意欲の高い学生が「あまり理解していない」「全く理解していない」を選択した割合は全体の 7.5% であった。シラバスを利用しないよりは少ない割合であったが、卒業要件や各学年での履修進捗などは理解するための基礎知識にもなるため、適宜対応が望まれる事項である。

Table9. 各学年における時間割・履修計画の理解状況

時間割・履修 計画の理解 学年	a.よく理解している	b.理解している	c.あまり理解して いない	d.全く理解して いない
a.1 年生	32	57	15	2
b.2 年生	26	33	7	0
c.3 年生	33	27	11	1
d.4 年生	11	11	0	0

各学年における時間割・履修計画の理解状況は Table9 の通りである。低学年の理解が悪いことを推測したが、各学年での「あまり理解していない」「まったく理解していない」の回答割合に大きな違いはなかった。特に 4 年生では「あまり理解していない」「まったく理解していない」との回答はなかったが、1～3 年に一定の割合で理解不足の学生がいることに留意すべきであろう。

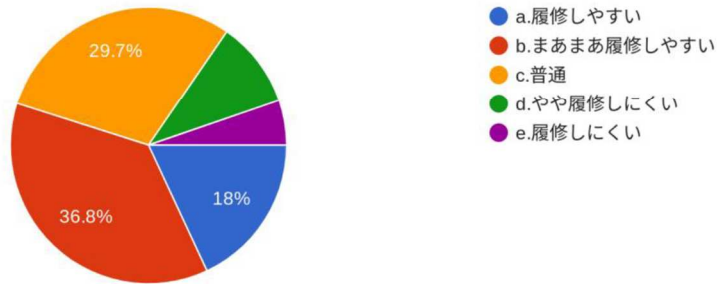
Table10. 日本人学生・留学生・外国人学生による時間割・履修計画の理解度

時間割・履修 計画の理解 種別	a.よく理解している	b.理解している	c.あまり理解して いない	d.全く理解して いない
a.日本人学生	66	92	24	3
b.留学生	29	32	7	0
c.外国人学生	7	4	2	0

Table7 は日本人学生・留学生・外国人学生による時間割・履修計画の理解度の違いである。データからは、日本語の読解に難がある留学生や外国人学生が時間割作成や履修計画に困難を示しているわけではないことが伺える。

履修しやすさ

9. カリキュラムについて、時間割の面で履修がしやすいですか
266件の回答



「9.カリキュラムについて、時間割の面で履修がしやすいですか」の回答結果は上記の通りであった。回答者の15.5%が「やや履修しにくい」「履修しにくい」を選択していた。

Table11. 「履修しやすさ」と「授業への動機づけ」のクロス集計表

履修しやすさ 動機づけ	a.履修しやすい	b.まあまあ履修 しやすい	c.普通	d.やや履修 しにくい	e.履修しにくい
a.大いにそう思う	31	27	19	5	2
b.ややそう思う	14	60	37	9	6
c.どちらでもない	2	9	18	8	3
d.そう思わない	1	2	4	5	3

「2.自分は授業に対して、学ぶ意欲を持ち、真面目に取り組んでいると思いますか」と「履修しやすさ」のクロス集計表はTable11の通りであった。

学習意欲の高い学生が「やや履修しにくい」「履修しにくい」を選択した割合は全体の8.3%で、学習意欲のある学生のほとんどがカリキュラム上の履修しにくさを感じていなかったことが伺える。

Table12. 各学年におけるカリキュラムの履修しやすさ評定

履修しやすさ 学年	a.履修しやすい	b.まあまあ履修 しやすい	c.普通	d.やや履修 しにくい	e.履修しにくい
a.1年生	18	45	25	14	4
b.2年生	17	20	22	4	3
c.3年生	6	24	28	8	6
d.4年生	7	9	4	1	1

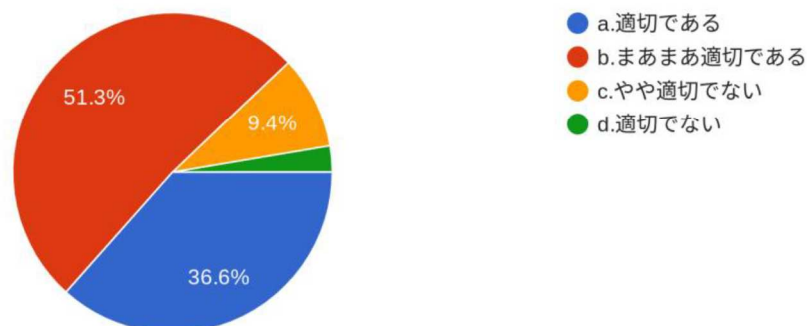
各学年におけるカリキュラムの履修しやすさ評定はTable12となる。学年別だと1年生16.9%、2年生10.6%、3年生の19.4%、4年生9.1%が「やや履修しにくい」「履修しにくい」と回答していた。

1年は必修が多い中で総合教養科目等の選択を行うので、選択科目の自由度が低くなる傾向がある。また3年生は自身の主専攻の専門基礎科目を2年次に履修した上での専門の積み上げになるため、やはり選択が難しくなる。これらはいずれもカリキュラム上の特性によるものと推察されるため、学生側へは丁寧な説明で対応したい。

成績評価の適切性

10. 単位取得要件や成績のつけ方は適切ですか

265 件の回答



「10.単位取得要件や成績のつけ方は適切ですか」の回答結果は上記の通りであった。「やや適切でない」「適切でない」を選択した回答者は 12.1%に止まったことから、評価の妥当性についてはある程度支持されていると推察される。

Table13. 「成績評価の適切性」と「授業への動機づけ」のクロス集計表

評価の適切性 \ 動機づけ	a.適切である	b.まあまあ適切	c.やや適切でない	d.適切でない
a.大いにそう思う	46	34	3	1
b.ややそう思う	38	75	11	1
c.どちらでもない	8	21	9	2
d.そう思わない	5	5	2	3

「2.自分は授業に対して、学ぶ意欲を持ち、真面目に取り組んでいると思いますか」と「成績評価の適切性」のクロス集計表は Table11 の通りであった。

学習意欲の高い学生が授業における評価を「やや適切でない」「適切でない」と選択した割合は全体の 6.1%に留まったことから、学習意欲の高い学生には評価の妥当性をある程度支持されていたことが伺える。

Table14. 各学年における成績評価の適切性評定

評価の適切性 \ 学年	a.適切である	b.まあまあ適切	c.やや適切でない	d.適切でない
a.1 年生	37	54	10	4
b.2 年生	28	29	8	1
c.3 年生	22	42	6	2
d.4 年生	10	11	1	0

Table14 は各学年における成績評価の適切性評定である。学年別だと 1 年生 13.2%, 2 年生 13.6%, 3 年生の 11.1%, 4 年生 4.5%が「やや適切でない」「適切でない」と回答していた。低学年で成績評価に疑問を抱く傾向が強いことが伺える。学年が進むと（過去の評価も含めて）評価方法等の妥当性を感じるようになるが、評価体験が少ないと基準や判断の指標等が分からず、結果的に納得できないものが出てくるものと推察される。1~2 年生に向けて成績評価基準等を明確にレクチャーするような改善が待たれるところであろう。

総括

令和 3 年度（2020 年度）学生生活アンケート」における教育関連項目の分析を行った。質問項目が多岐にわたり、まだ分析対象とすべき事項もあるが、まずは教学に関わる事項だけ取り上げて分析、考えられる解釈等を行った。

教学に関して、著しくネガティブな評価に偏った事項はなかったことがデータから伺えた。本学の提供するカリキュラムや個別の授業等に一定の理解を示していた回答と考えられよう。

今回は大学教育への動機づけが高いと自己評価している学生のネガティブな回答傾向を探ったが、ある特定の傾向が認められるようなデータではなかった。やる気のある学生が不満に感じている点については、教学全体で対処すべき事項は見受けられなかったといえる。

一方で、部分的ではあるが検討の余地のある点を示唆するデータもあった。まず、シラバスを活用していない学生数が比較的多かった点である。1 年生の前期オリエンテーションでシラバスについては解説しているものの、活用方法などを別の時期にレクチャーする機会は特に設けていなかった。時間割作成や 4 年間の履修計画を立てる上でも重要なアイテムになるので、シラバス活用を促進するような取り組みが望まれる。

また、学習への動機づけが高い学生が示す授業への不満と、学習意欲の乏しい学生のそれとで内容が大幅に異なっていた点も注意したい。授業への要望は年度に関係なく多いが、学習意欲の高い学生の要望は、授業の質的な部分を求める傾向があった（より深い内容を教授して欲しい、成績評価の厳格化など）。コメントは一部の学生であったが、授業改善を考える上でどのような学生を満足させるか、のひとつの指標ともいえるだろう。

最後に、今回分析したデータはレコード数が 267 となっていた。2021 年度の前在籍者数は 650 名（2021 年 5 月 13 日時点）であり、40%強の学生による回答データとなっていた。こちらのアンケート回収率を上げることも今後の課題となるであろう。

(2022.9.16 作成)